# Hybrid Trees

## “Concept”

この樹は　“core”ー“幹”
“slab”ー“枝の集合体”　により形成される。　枝の上には“葉”である“garden”が触手を伸ばす。

人々の活動はこの樹に寄生し依存する。

“幹”は“core”であり樹を支える。coreには動線が配される。　また幹は“void”でもある。上下のつながりを作り出し、光や風を階下に届ける。
“枝”である“slab”は様々な高さに存在し、幹に伴って大きさを変える。近づいたり離れたり、時に絡まり合ってその領域を広げる。

幾つもの樹々を植え、森を形成することで、活動の関係性は更に多様化し加速する。

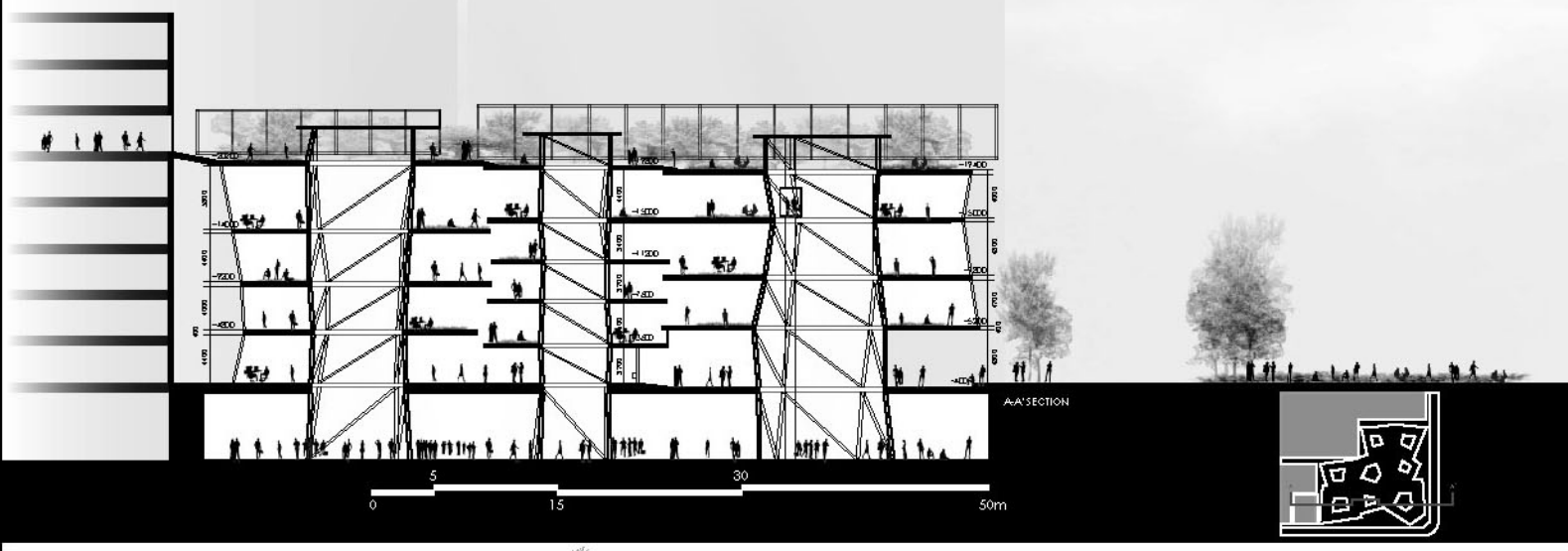
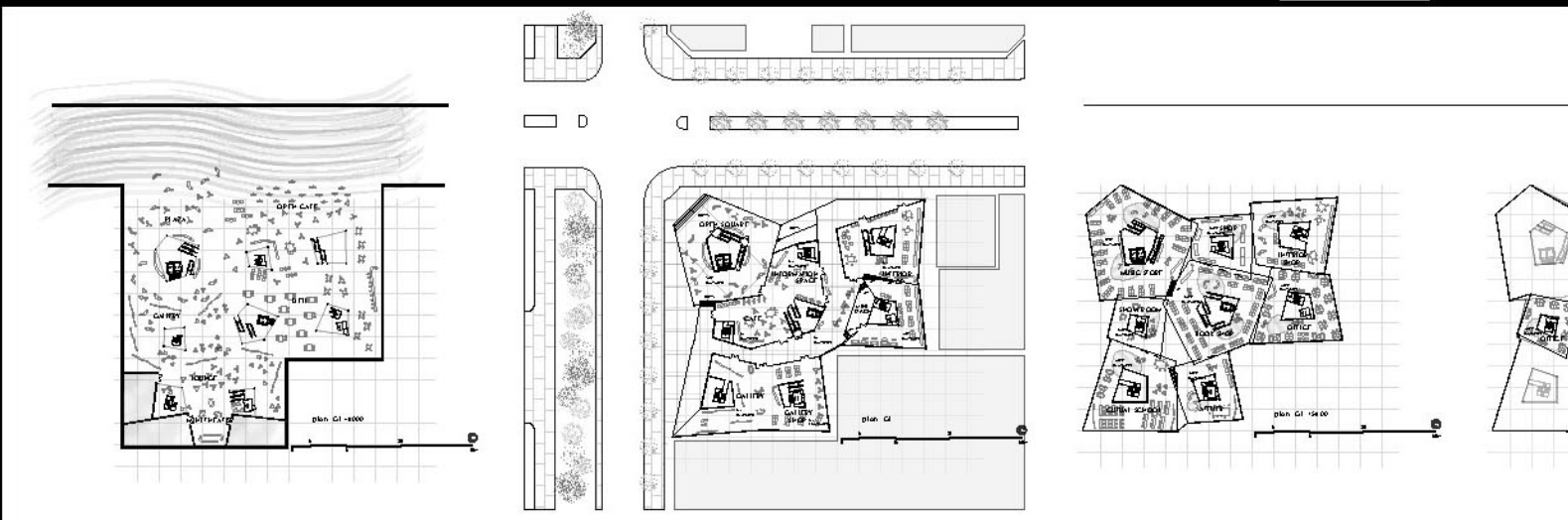
## “New relation”

“hybrid trees”は８本の樹により構成される。　周辺の全てと関係を持ちながら、新たな空間を作り出す。

in the architecture__　樹々のスラブは異なるレベルで存在し、階層化され単一層に閉じ込められていたアクティビティは開放され、他フロアとの関係が生まれる。
またスラブ上に配された建物内部の緑“garden”は冬でもその姿を保ち、新たな使い方・スタイルを提案できる。

to the EKIMAE street__　地表部分は外部空間が内部に入り込み、樹々の間を巡る構成となる。slabの形状を通りの人の流れに合わせることで人を引き込み、奥行きを感じさせる。また大通公園との辻には地下へのエントランスを中心とした広場を設け、上下の人のつながりを促す。

to the underground__　幹である“core＝void”は地下に根を下ろし、光や風などの自然を取り込む。地下の環境は飛躍的に向上する。

to the Odori park__　大通公園の緑の要素を“garden”とラップさせる。内部に自然が取り込まれる。
屋上は大きなroof gardenとなっており、大通公園の緑とオーバーラップし、都心の緑地を形成する。

to the building__　隣接したビル群の眺望・採光を改善するため、建物は５層程度の高さで抑え、屋上にroof gardenを配する。既存ビルから直接アクセス出来
るようにすることで、屋上はビルにおける公園となり、エントランスとなる。